

日本の社会運動家の草分けとして知られる賀川豊彦(1888—1960年)が執筆した小説や詩などを展示する企画展「愛の労苦と希望—賀川豊彦の文学」

が1日、灘区王子町3の神戸文学館で始まる。直筆の原稿や手紙、挿絵など約100点並び、文学者としての才能を垣間見ることができる。(河尻 悟)

### 神戸出身・社会運動家 賀川豊彦の多彩な世界



賀川豊彦

# 文学活動の足跡紹介

二〇〇二年十二月から神戸市内のスラム街に入り、貧しい人々に食事や医療を無料で提供するなど救貧・防貧活動に力を注いだ。

**灘 区**  
賀川は兵庫区生まれ。幼少期は徳島県鳴門市などで過ごし、東京や神戸の神学校に進んだ後、一九〇九(明治四十一年)版など、数多くの文学作品

きょうから神戸文学館



賀川豊彦直筆の書や写真などが並ぶ企画展「神戸文学館

## ベストセラー 直筆原稿、掛け軸も 「死線を越えて」

も世に送り出している。

企画展では、いずれも明治学院(東京)が所蔵する「死線を越えて」の手書き原稿や直筆の掛け軸が同学院以外で初めて公開されるのをはじめ、二二(大正十一)年に描いた風刺小説「空中征服」の自筆挿絵などを展示。ジャーナリスト徳富蘇峰が賀川あてに出した書簡なども並ぶ。

山本幹夫館長は「賀川の膨大な活動の中で、文学に焦点を当てた展示は初めてではないか。多彩な才能の一部を見てもらえば」と話している。

来年二月二十四日まで(水曜、年末年始は休み)。期間中、宗教家や研究者らによる記念講演もある。神戸文学館

07822・20208